

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 3 7 号	2004年8月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

8月1日(日)本日台風明け大雨の中16名の参加者を得まして田んぼの除草が完全に完了しました。参加された皆様との雨の中で、ずぶぬれになりながらもやらなければ収穫に影響するとの悲壮感を持つての草取りで、会員相互の連帯感も沸き非常に有意義な活動であったと思います。収穫祭の餅つきが非常に楽しみで、思い出深いものになったと衷心より喜んでいきます。

8月5日(木)本日宇部市環境共生課主催「親子水辺の教室」でビオトープに楠町、宇部市の親子46名が学習にこられました。会長、石井、原田でご案内いたしました。

8月21日(土)蕎麦の播種に会員15名と自然観察隊員10名、ほか保護者7名にて完了しました。また田んぼ周り、池周りの草刈りが行われました。

8月21日(土)里山自然観察隊は午前の蕎麦種まき後引き続いて厚東川の水棲動物の観察を行い隊員16名保護者12名指導者(会員+学生3)8名にて楽しく観察が出来ました。

2. 今後の予定（事務局 記）

見学者

8月末 「田万川流域環境を考える会」20名程度

行事

9月5日 第一日曜日 秋の溝掃除のため側溝周りの草刈

9月18日第三土曜日 作業、午後の「里山自然観察隊」は昆虫観察

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

デンジソウとタヌキモ

今回は、最近湿地で発見した植物を2種紹介します。

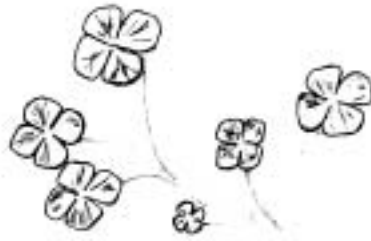
デンジソウは、デンジソウ科のシダ植物で、漢字で書くと「田字草」、湿地の木道の近くで数株がその名の通り、四つ葉のクローバー型の葉を広げています。かつては全国に広く分布していましたが、除草剤の使用で激減しました。現在絶滅危惧II類(VU)に指定されています。

デンジソウは雌雄両方の孢子を含んだ孢子嚢果という袋をつくります。この孢子嚢果の殻は硬く、乾燥にも強く、20年以上も生きていられるといわれています。孢子からの発芽のためには適度な攪乱がある湿地が好ましいようで、そのためビオトープの湿地で発生したのでしょう。

福岡県では、絶滅に近い状態で、北九州高校がつくった中庭ビオトープが「福岡県内最大のデンジソウ生育地」となっているそうです。

タヌキモも、絶滅危惧II類の希少植物です。池に浮遊しているタヌキモ科の多年草ですが、8月7日にたまたま黄色い花を付けていたので発見することができました。その名の由来は、フサフサとした感じが狸の尻尾に似ていることからついたようです。多数の捕虫囊があり、ミジンコなどを捕らえて消化・吸収します。虫を吸い込む仕組みは、袋の入り口には左右2本づつのトゲが生えていて、これにミジンコ等が触れると、テコの働きでドアが開いて、低圧状態の袋の中に水と一緒に吸い込んでしまうということです。虫を消化吸収するために、消化酵素としてはプロテアーゼ、酸性フォスファターゼが確認されているそうです。夏に黄色い花を咲かせますが果実はできず、球形の越冬芽が水底に沈み春を待ちます。

これら2種の植物は、地味な水草ですが、二俣瀬ビオトープではぜひ大切にしていきたい植物です。移植ではなく、自然に生えてきたのですからなおさらのことです。



デンジソウ（デンジソウ科）

タヌキモ（タヌキモ科）

4. ピオトープ関連（会員の声）

今年も又咲いてくれたルドビキヤの花よ有り難う（渡辺 昭和 記）

幅28メートル道路傍らに作られた花壇のつつじとつつじとの隙間に、きらら博が開かれた年に植えた、三本のルドビキヤが、この暑さにもめげず青い空と、にらめっこしながら身丈1メートル30センチから50センチの十数本の束になり、イエローオレンジ色の中輪の鮮やかな花を風に靡かせながら堂々と今年も又咲いてくれたのです。寒さにも暑さにも耐え忍び、水は雨だけをたよりに肥料なんて当然なしの放ったらかしのこの環境の中、しかも車や人通りの多い騒々しい道路に面する花壇で、咲き終わった、つつじの葉っぱを掻き分けて忽然と、つつじの上に君臨し、つつじを見おろして、咲き誇っているのです。私は、その凛々しい生命力に感心感動させられます。人によっては好きずきで、決して優雅でスマートで上品で誰にも好かれるといった花ではないかもしれませんが、その力強さを称賛したいのです。

この花は、何年か前に開催された、きらら博を盛り上げる為に、色々な思いを込め育てられた花なのです。常盤公園のひと角で、末広先生（元植物園の副館長）御指導のもと多くの人の手で、ひと粒ひと粒の種を丁寧に丁寧に流れ出る汗を拭きつつ種を蒔き育て上げられた、二十数万本、何種類も育成されたその中の一種類の思いで多き花なのです。

夏のあの白い雲が浮かび上がって来ると今年も又咲いてくれるかなあと待ち望んでいた花なので尚更一層の思いが浮かぶ、ルドビキヤの花なのです。

この殺伐としたニュース報道の多い世の中で、須賀河内川の澄んだ水の清き流れに沿って生まれた、ピオトープでは、水車は回り、青い空に草木は緑を一杯にはぐくみ、メダカは泳ぎ、花は咲き、子供は網を振り回して、はしゃぎ遊ぶ、大人は心を癒し、ゆったりと時は流れ、平和で、テロなんて、無い世にしたいものですね。

私の胸は、来年も又、大空に向かって逞しく咲いて下さいねーと、ルドビキヤの花に心を踊らせています。

今回は 田村会員御夫妻にリレーします。宜しく

5. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

8月18日 埼玉より帰省して見学にきました。子供がピオトープに関心があり、大学でも地域環境の勉強をしています。今度は違う季節にも訪れたいと思います。（著者不明）

8月20日 神奈川県逗子から来ました。宇部に帰省すると必ず、ここピオトープに来ます。5才の息子はずっととんぼを追いかけて走りまわっています。赤とんぼ、鬼やんま、黄色いとんぼ等、はじめてみるたくさんとんぼに大興奮です。（7才の娘は）はすの花のたねを、見つけました。ぶどうのみ、みたいです。（しおむらあきこ、7才）

8月20日 橋の下の川で魚をつかみ取りして遊びました。成果15cm台5匹。頭上のこんもり繁ったつたの赤紫の花がハチミツそのものの匂いがして、ミツバチがぶんぶんと飛び回っていました。

口の周りにブツブツがついた婚姻色の出ている魚と口の長く縦の銀と黒の縞がついた魚、それと小さなハヤをつかんで捕えることができました。大きなドンコもいましたが案外動きが早く捕えられませんでした。捕った魚は全てリリースしました。(著者不明)

6、会よりの連絡事項

1) 会員の住所変更

西原一誠会員が住所を変更されました。

宇部市大字中野開作5 6 5 番地 (〒759-0203)

7. 編集後記

夏も終わりに近づき、屋外での作業が少しは楽になる季節となりました。来月からは、いよいよ実りの秋となります。

今月の作業は、収穫に備えた、田の雑草とり、土手の草刈、蕎麦の種まきなどでした。これらを行いながら感じたのは、我々の参集日の作業のほかにも、様々な作業が行われているであろうということです。蕎麦畑は畝が整えられ、我々はわずかばかりの雑草を抜いただけで、種をまくことができました。田植えのときにも、全ての準備がなされています。雑草の駆除、害虫への対策、田の水の管理も欠かせません。作物を収穫するためには、私が想像していた以上の手間がかかるものです。特に無農薬では。

これから、稲刈り、蕎麦の収穫、ハスの収穫と続きますが、喜びとともに、苦勞を思い浮かべてほしいものです。

21日現在、湿地帯の所々に、サギ草が花を咲かせています。なお、草原ゾーンでマムシを見かけましたので、くれぐれも注意を。

(前田 歳朗 記)